

看護小規模多機能型居宅介護

ケアホーム希望

希望  
のぞみ



ニュース

Vol.57 平成30年6月号

(株)つつじヶ丘在宅総合センター

〒182-0006

調布市西つつじヶ丘2-19-6

第三コーポ横田 1F

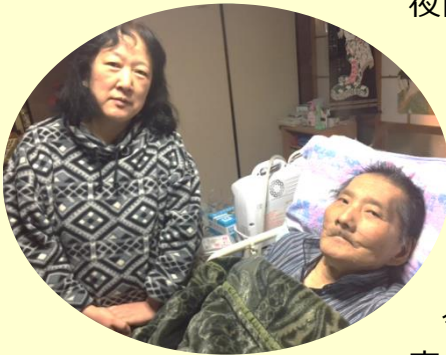
☎ 03-5315-5722



## 病院で病状は悪化する！

H氏はパーキンソン病のヤールV度。

食べれなくなり、胃ろう造設したのは4年前。その後、半年に一回 ○○病院にて胃ろう交換と家族の介護休息のため、14日間の入院をする。病状は少しずつ悪化したものの、本人は「家で暮らしたい」、更に「家で最期を迎えたい」という願いで私たちも10年間、看護、介護をしてきた。最近、1日に朝と夕の「訪問看護」で病状チェック、排泄介助、清拭や吸引、胃ろう注入、そして家族への介護指導を行う。



夜間は妻と娘が協力して夫のベッド横に寝て「ゴボツ」と咳き込むとその都度、口腔ケアや痰を吸引する。

時々熱を出すことがあるが、早期に『ケアホーム希望』の「泊まり」のサービスを利用し、医師が往診してくれ大事に至ることなく在宅療養生活が続けられていた。唯一の楽しみは遠方にいる娘が2人目を出産しテレビ電話で「ジイジ～」とはしゃぐ孫の姿を見ることが、なによりの楽しみである。

今回も定期的な胃ろう交換で入院した。入院するたびに主治医が変わるため、訪問診療の医師から情報提供書をもらい、訪問看護から生活状況を記入し「何かあれば連絡ください」とのコメントを入れて、入院先の病院と地域連携が図れるようにした。

当初の退院予定日を過ぎても帰って来ないため、妻に確認をしてみると、胃ろう交換の後に誤嚥性肺炎を起こし治療中とのこと…。

こちらからも病院側へ確認の連絡を入れてみると、病院の主治医は「病状は家族に伝えているから」と。更に喉に穴をあける気管切開の話まで出ていると言うので、慌てて病院へ行ってみると、カーテンで仕切られた4人部屋で点滴やモニター等が付けられた状態のH氏は、まるで別人のような姿で寝ていた。

声は出せず、私たちの姿を見ると必死で「帰りたい…」と、訴えてくる。言葉が上手く出せていないが、私たちには長年H氏を介護してきただけに通じるものがある。

病院の看護師と主治医に病状を聞くと「誤嚥性肺炎となり今後もくり返す」と言われた。しかし、今回の入院は、定期的な胃ろう交換のための入院であり、誤嚥性肺炎で入院した訳ではない。病院へ入院し、誤嚥性肺炎になったのではないのか？

そして「決して家に帰れる状況ではない」と言われた。

H氏本人は「病院でなんか死にたくない、最期は家がいい」と、元気な頃から常々言っていたということを主治医に伝えると

「じゃ、早めに退院をした方がいい…」と、急遽退院となった。

私たちは、入院したら病院を信じ、医師を信じて大切な命を預ける。「病院はもっと在宅療養生活がどうしたらよくなるのかを深く考え、地域連携を図ってほしい」と思う。



次号につづく…

**出発！**



今日は  
みんなでどこへ  
行くのかしら？

ホームセンターに到着したら  
まずは食事から！



みんなよう  
食べるな～

**いただきま～す！**



**良く食べ～**



わあ～ みんな  
何 買ってるの？



私も 安いので  
買って帰りたい…

ほら…  
こっちの方が  
安いよ



**良く笑い…**



**私たちは外出して  
みんなで生活リハビリ  
しています！**



これで  
足りる？

これも  
ください…



仔犬に癒された後は  
日用品コーナーでお買い物

あなたは…秋田犬の  
マサルなの？

違う  
ワン！



**ペットコーナーへ**